

悪性神経膠腫におけるapoptosis(自爆死)誘発と抑制因子の基礎的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Tachibana, Osamu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066601

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



悪性神経膠腫におけるapoptosis(自爆死)誘発と抑制因子の基礎的研究

Research Project

All



Project/Area Number

05771015

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Cerebral neurosurgery

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

立花 修 金沢大学, 医学部・附属病院, 助手 (40211362)

Project Period (FY)

1993

Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

Budget Amount *help

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Keywords

C6 glioma / Fas / Bcl-2 / apoptosis

Research Abstract

ラットC6 glioma cell lineに対して、Fas抗体(IgM)を加え、Cell deathの形態を観察した。Fas抗体は30ng/ml,50ng/mlの濃度で培養液に添加した。コントロールと添加直後、24時間後、48時間後、72時間後、96時間後に光顕的、電顕的、ならびにin situ nick-endolabelling法で観察した。培養細胞は浮遊したものも採取し、遠沈後、光顕的には4%PFAで固定し凍結包埋した。電顕的には2%GAで前固定し、Osmiumで後固定しlepon包埋した。また、ラットの脳内にmicroinjector

でFasを注入しラット脳の変化を観察した。C6培養細胞では、Fas添加24時間後から細胞縮小が始まり、72時間後には多数のearly apoptosisの所見を得た。96時間後には、apoptotic bodyが見られた。in situ nick end-labelling法ではapoptosisに陥った核に陽性反応がみられた。免疫組織化学的にC6にFasは発現していたが、Bcl-2蛋白は発現していなかった。ラット脳において、Bcl-2は神経細胞、microglia、perivascular cellに発現がみられた。Fasは神経細胞と一部のmicrogliaに見られた。Fas注入ラットは、1ヵ月生存しており、注入部分の神経細胞死はみられなかった。以上により、Fasはラット悪性神経膠腫の培養細胞に有効であり、ラットの正常脳にはほとんど影響がなかった。また、神経細胞もFasを有しているがBcl-2を同時に有することにより、Fasによる細胞死(apoptosis)をまぬがれると考えられた。

Report (1 results)

1993 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05771015/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2016-04-21